

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-190	20-008	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
Consumption of Alcohol and Drugs in the School Population of Sao Tome and Principe サントメ・プリンシペの学生における飲酒と薬物使用の現状		
執筆者		
De Santiago I, Ribeiro R, Nicolau LB, Marinho RT, Pereira-Miguel J.		
掲載誌		
Acta Med Port. 2020 Apr 1;33(4):237-245. doi: 10.20344/amp.11876.		
キーワード	PMID	
飲酒、違法薬物、学生	32238237	
要 旨		
目的： アフリカの島国であるサントメ・プリンシペでは、予防的介入の対象となり得る学生の飲酒と薬物使用に関する研究報告がない。本研究は、サントメ・プリンシペの学生における飲酒と薬物使用頻度、およびその使用者の特徴を調査することを目的とした。		
方法： 2013年9月～2014年5月の間、中等教育学校の8～12学年、大学・夜間学校、専門・資格学校に通っていた学生の代表集団2064人を対象に質問紙調査を行った。質問は、経歴、人口統計学的、社会経済的な質問、飲酒および違法薬物の使用についてであり、匿名で実施した。人口統計学および社会的特徴は頻度として記述し、グループ間の比較はカイ二乗検定（またはFisherの正確検定）を用いた。有意水準は $\alpha=0.05$ とした。		
結果： 半数以上の学生に1回以上の飲酒経験があり、32%が過去30日間以内に飲酒していた。年長者ほど飲酒割合が高かったが（ $p < 0.0001$ ）、16歳未満の学生でも17%が過去30日以内に飲酒していた。また、7%が過去30日間において週に1回以上飲酒していた。頻繁に飲酒する者の飲酒理由は、男性（友人グループへの参加）と女性（不安の軽減）で異なっていた（ $p=0.005$ ）。マリファナ、コカイン、クラック、エクスタシーの使用経験があると回答した者は1%未満であった。		
結論： 自己申告ではあるが、サントメ・プリンシペの学生の多量飲酒・違法薬物使用の実態を示した。薬物使用は比較的少ないものの、学生における飲酒頻度は高く、予防的介入は公衆衛生上の喫緊の課題である。		